

令和2（2020）年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立大国小学校

令和3（2021）年3月

大阪市立大国小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

平成29年3月の「大阪市教育振興基本計画」の改定において、「最重要目標」として、(1)子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現
(2)心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上
が掲げられた。この最重要目標に即して、現状と課題を明らかにしたい。

(1) 子どもが安心して成長できる安全な社会の実現

○子どもの安全確保について

保護者・地域・関係諸機関と連携を図り、通学路等の安全確保に努めてきた。令和元年度末の保護者アンケートでは「学校は子どもの安全確保について、積極的に取り組んでいる」とした肯定的な回答は99%であった。本年度も90%以上を維持していきたい。また、今後も地域と交流を深め、子どもの安全確保に努めたい。

さらに個々の家庭との連携を深め、子どもの生活実態の正確な把握に努めたい。問題等が把握されれば、関係諸機関（こども相談センター、浪速区子育て支援室、民生委員協議会、連合町会）等と協議し改善に努めるようする。また、地域社会から孤立する家庭や子どもをなくすために、社会福祉協議会、地域活動協議会と連携し、「大国こども食堂“まんぶく”」等を通じ、子どもや家庭と地域との関わりを深めていくようする。

○暴力行為、いじめについて等について

子どもは発達段階において、友だちと喧嘩をしたり、言い合いになったりすることがあるが、話し合いで解決できるように努めている。

自分の思いや気持ちをうまく伝えることができない子どもがトラブルになりやすい傾向がみられる。令和元年度の児童アンケートでは「先生や友だちに自分の思いや気持ちを話せている」という質問の肯定的な回答は59%に留まっている。日々の学級指導や、道徳、総合的な学習の時間などの学習を通して、自分の思いや気持ちをうまく伝えることができるよう努める。

経年調査質問紙の「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目では4学年の平均が86%であった。今年度も85%以上を目指したい。また、令和元年度のいじめアンケートでは、いじめ事象を100%解消することができた。令和元年度も教職員のいじめへの認識を高め、教職員が子どもの話に耳を傾けるなど日常の子どもの対話を重視し、早期発見、早期解決を図り解消率を維持していきたい。

○不登校児童について

令和元年度は不登校児童が2名いた。こども相談センター、浪速区子育て支援室、主任児童委員とも連携をとり、改善に向けて取り組んでいる。1日でも多く登校できるように、不登校の中でも学力保障ができるように、保護者との対話をさらに進めたい。

○あいさつ運動について

児童会が中心となり、「あいさつ運動」に取り組んでいる。令和元年度の児童アンケートでは「毎朝、元気よくあいさつしている」の肯定的な回答は69%であった。民生委員の方々が月に一度正門に立ち、あいさつ運動に参加していただいている。また、下校時には、地

域の見守り隊の方々が、児童に挨拶をしながら、児童の安全を守る活動を続けてくださっている。学級でもあいさつの大切さを理解できるようにしたり、あいさつへの啓発を行うなどして、自分と関わる多くの人たちと自然にあいさつを交わすことができるようにしていきたい。

○地域の伝統産業とのかかわり

「大阪らしさを活かした取り組み」として、地域の伝統産業である「かわ・皮・革」についての学習を、全学年を通して行っている。学習にあたっては、地域のサポートをいただきながら、児童が太鼓演奏をするなどして、地域との交流を図り、地域のよさや命の大切さに気づく実践を行っている。この本校の伝統的な特色ある取り組みを継続して行っていく。

(2) 心豊かに力強く生き抜き未来を拓くための学力・体力の向上

① 学力の向上について

○全国学力学習状況調査・学力経年調査について

全国学力学習状況調査では、国語科、算数科ともに全国平均点を下回った。学力経年調査の結果においては、標準化得点が3年92.4、4年96.5、5年99.2、6年96.7とすべての学年が大阪市の平均を下回った。

○質問紙調査から

質問紙調査よりは自尊感情や自己有用感は高まりがみられる。その中で、質問紙調査の「学校の授業時間以外に、ふだんどれくらいの時間、勉強していますか」の質問に着目すると、「30分よりすくない」と答えた児童の正答率は明らかに低い結果となっている。これまで家庭学習の啓発を図ってきたが、今後も家庭学習ができるように工夫とともに、家庭で落ち着いて学習できない環境に置かれている児童が学校で学習して帰ることができることに重点を置き、浪速区の放課後ステップアップ事業との連携や、放課後学習に力を注いでいきたい。

また、質問紙調査の「読書は好きですか」という質問に対して、肯定的回答は76%だったが、「学校の授業時間以外に1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか」という質問では「30分よりすくない」と回答した児童が3年42%、4年72%、5年60%、6年79%という結果であった。家庭での読書が定着していないことが分かる。今後も家庭での読書時間を増やす啓発活動をするとともに、子どもが学校生活でも本にふれる機会を増やす。そのため、図書室の充実を図るなど環境整備をするとともに、図書委員会による読書推進活動を進めるなど、読書意欲を高める工夫を図りたい。また、読み聞かせボランティアによる月に一度の読み聞かせ運動にも取り組んでいく。

○新学習指導要領を見据えて

主体的、対話的で深い学びを推進する。子どもたちの中には、指導者の指示を待つなど、主体的に学習できず、受け身的な傾向がみられる。児童が「学びたい」と思えるように導入を工夫し、互いの考えを交流する対話的な学びを大切にしながら、まとめのときも「なぜ」の疑問を大切にすることにより、主体的、対話的で深い学びを推進していく。さらに、令和2年度はプログラミング学習にも全学年で取り組んでいく。

○体験的な学習活動の重視

社会的な事象を直接見たり、聞いたり、触れたり、また人と出会い話をしたりすることを通して、自分の生活との関連などを具体的に考えたり、行動したりすることができるよう体験的な学習活動を多く取り入れていく。

②体力の向上について

体育科の授業の初めに、準備運動と柔軟体操を取り入れることにより、怪我の防止と柔軟性の向上に結びついている。

また、休み時間に、担任や担当が子どもたちと一緒に走ったり、サッカーをしたり、ドッジボールをしたり、一輪車をしたり、竹馬をしたり、長縄跳びをしたりして遊ぶことにより、子どもたちの体を動かす機会の増加、体を動かすことが好きになる子どもの増加、基礎体力の増進に繋がっている。

さらに、学校全体で取り組んできた「外遊び週間」、「たてわり遊び」、「長縄大会」などの実施を通して、運動遊びの楽しさに触れる機会を多くもつように取り組むことにより、運動遊びの楽しさに気づく子どもが増えた。

以上の取り組み等の結果、多くの種目で大阪市平均を上回ることができた。

その一方で、20mシャトルランは、男女ともに大阪市平均よりも下回った。今後は、持久力を向上させる取り組みを進めていく必要がある。持久力を向上させる取り組みとしては、個人の頑張りがわかるマラソンカードの導入、マラソン大会の実施、体育科の授業の初めにランニングをする等が考えられる。

また、本校では、朝食を食べていない児童が大阪市や全国の平均と比べて多い。さらに、ゲーム機やスマートフォン、タブレットの画面を見ている時間が、大阪市や全国の平均と比べて長い。入学説明会、学校ホームページ、学校便り、学級懇談会、学年便り、PTA新聞などを通じて、子どもだけでなく保護者へも啓発を行っていく必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○令和2年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を90%以上にする

○令和2年度の校内アンケートで「先生や友だちに自分の思いや気持ちを話せている」と答える子どもの割合を90%以上にする

○令和2年度の子どもアンケート、保護者アンケート、地域関係者アンケートとともに「きちんとあいさつをする」の項目の肯定的な回答の割合を95%以上にする。

○令和2年度の保護者アンケート、地域関係者アンケートとともに「学校は子どもの安全確保に積極的に取り組んでいる」項目の肯定的回答を95%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○令和2年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、平成28年度（3年88、4年92、5年86、6年92）より向上させる。

○令和2年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定

的に回答する児童（生徒）の割合を85%以上にする。

○令和2年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学校の授業時間以外に、ふだん1日当たりどれぐらい、勉強をしますか。」に対して、30分以上を回答する児童の割合を70%以上にする。

○令和2年度の校内アンケートで「運動したり、外で遊んだりすることは好きだ」という項目の肯定的回答を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

○令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。

○令和2年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を85%以上にする。

○令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。

○令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校の年度目標

○令和2年度の校内アンケートで「学校は楽しい」と答える子どもの割合を80%以上にする

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

○令和2年度の小学校学力経年調査における標準化得点（R1年度3年92.4 4年96.5 5年99.2）を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

○令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。

○令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より増加させる。

○令和2年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。

○令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である「シャトルラン」の平均の記録を、前年度より向上させる。

学校の年度目標

○令和2年度の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 令和2年12月の校内調査において、いじめについてアンケートに記載された件数は7件であった。そのすべてについて、詳細に調査した結果、解消した割合は100%であり、目標を達成した。
 - 令和2年12月の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数は、前年度・今年度ともに0件であり、目標を達成した。
 - 令和2年度において、新たに不登校になる児童の割合は0%であった。
 - 令和3年1月に実施した校内アンケートで「学校は楽しい」と答える子どもの割合は88%であり、目標を8%上回った。
 - 令和2年度の児童アンケートにおいて、「友だちの嫌がることをしたり、言ったりしていない」と肯定的に回答する児童の割合は83%であり、目標を3%上回った。
 - 令和2年度の児童アンケートにおいて、「先生や友達に自分の思いや気持ちを話せている」と肯定的に回答する児童の割合は72%であり、前年度よりも14%向上した。
 - 令和2年度の児童アンケートにおいて、「クラスの友達とは仲良くできている」と肯定的に回答する児童の割合は90%であり、前年度と同じ数値であった。
 - 令和2年度の児童アンケートにおいて、「自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答する児童の割合は76%であった。
 - 令和2年度の児童アンケートにおいて、「おはようございますなどのあいさつをしている」と肯定的に回答する児童の割合は87%であり、前年度よりも18%向上した。
- 各指標において、今年度の目標を上回ることができた。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である「シャトルラン」の平均記録は45回であり、前年度よりも2.3回向上した。
 - 児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」と答える子どもの割合は85%であり、目標を5%上回った。
 - 令和2年度の児童アンケートにおいて、「プログラミング学習は楽しい」と肯定的に回答する児童の割合は90%であり、目標を10%上回った。
 - 令和2年度の児童アンケートにおいて、「授業中、自分で考えて勉強したり、友だちの考えを聞いたりできている」と肯定的に回答する児童の割合は78%であり、目標を3%上回った。
 - 令和2年度の漢字検定の合格率は66%であり、目標を13%上回った。
- 各指標において、今年度の目標を上回ることができたり、目標通り達成したりすることができた。

大阪市立 大国小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>○令和2年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を85%以上にする。</p> <p>○令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。</p> <p>○令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○令和2年度の校内アンケートで「学校は楽しい」と答える子どもの割合を80%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>いじめのない安全・安心で楽しい学校生活が送れるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○いじめに発展する前の段階での早期発見、早期解消を図るために、児童アンケートを学期に1回実施し、実態の把握に努める。</p> <p>○いじめと認知した場合、事案のすべての解決に取り組む。人権教育会議を月1回程度実施し、情報と手立て、今後の方向性を全教職員で共有する。</p> <p>○令和2年度の児童アンケートにおいて、「友だちの嫌がることをしたり、言ったりしていない」と肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。</p> <p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>児童一人ひとりの個性を大切にし、より良い仲間づくりに取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>○令和2年度の児童アンケートにおいて、「先生や友達に自分の思いや気持ちを話せている」と肯定的に回答する児童の割合を、前年度よりも向上させる。</p> <p>○令和2年度の児童アンケートにおいて、「クラスの友達とは仲良くできている」と肯定的に回</p>	A

<p>答する児童の割合を、前年度よりも向上させる。</p>	
<p>取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】 人権教育を推進し、自尊心や自己肯定感向上に取り組む。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「褒めて、認めて、励ます」を実践しながら、児童の自尊心や自己肯定感向上に取り組む。 ○「かわ」等体験的な学習に系統的に取り組む。 ○令和2年度の児童アンケートにおいて、「自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答する児童の割合を、前年度よりも向上させる。 	A
<p>取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】 学校生活の月目標や、児童会活動の取り組みに基づき、あいさつの意識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「相手の目を見て」「相手に聞こえる声で」を意識して、日々の学級指導に取り組む。 ○児童会を中心として、「あいさつ週間」を年2回以上実施する。 ○令和2年度の児童アンケートにおいて、「おはようございますなどのあいさつをしている」と肯定的に回答する児童の割合を、前年度よりも向上させる。 	A
<p>取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】 性・生教育に取り組み、豊かな心や、互いのちがいを認め合える心を育む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○性・生教育の年間カリキュラムを作成し、全学年で系統立てて取り組む。 ○令和2年度の児童アンケートにおいて、「自分を大切にできている」と肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- 児童アンケートの実施後の児童との関わりや、児童理解研修での共通理解、浪速区役所子育て支援室や浪速区役所子どもサポートネット、こども相談センター等の関係諸機関と連携した対応に努めてきた結果、前年度より肯定的に回答する児童の割合が増えた。
- 新型コロナウィルス感染症や自然災害、SNS中傷による自殺や児童虐待が問題となる中、命と向き合う場面が多かった。その今年に改めて平和の大切さや命の尊さを知るきっかけになればと全児童・全教職員でゲルニカの作成に取り組み、PTAや地域の方からの協力も受けて体育館正面入り口横の壁に飾ることができた。
- 計画的に実施できている。引き続き取り組んでいく必要がある。
- 集団登校がなくなり、自分のペースで登校できることで、周りの子を意識することなく、自然に自らあいさつできる子が増えてきた。
- 性・生教育の年間カリキュラムを作成し、全学年や委員会活動（学期に1回）で、系統立てて取り組んできた。辻由起子先生のご指導の下、授業研究及び研修を行うことで、自分を大切にする児童が増えてきた。

改善点

- 今後は児童の行動の報告にとどまらず、その背景や要因に何があるのかを分析し、学級運営を中心とした今後の対応を考え、実践報告場を児童理解研修にし、交流していく必要がある。
- 継続指導するとともに、日々の学校生活や学習の中で人権教育を進め、支え合う仲間づくり（学級づくり）に焦点を当てた取り組みしていく。
- 挨拶が自らできなかつたり、身近でない人に対してできなかつたりするので、段階をふんで指導していく必要がある。先ず、あまり考えずに、できる環境づくり（やった結果を見るように残していく等）からすすめていく必要がある。
- 継続的に実践することで、性・生教育に対する正しい認識をする子を育てる。

大阪市立 大国小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和2年度の小学校学力経年調査における標準化得点（R1年度3年92.4 4年96.5 5年99.2）を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ○令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。 ○令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より増加させる。 ○令和2年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。 ○令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である「シャトルラン」の平均の記録を、前年度より向上させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和2年度の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</p> <p>全学年において、プログラミング教育に取り組む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プログラミング教育の年間カリキュラムを作成し、Pepper等を活用したプログラミング教育に全学年で取り組む。 ○令和2年度の児童アンケートにおいて、「プログラミング学習は楽しい」と肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。 	A
<p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</p> <p>主体的、対話的で深い学びの授業に取り組む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○経年調査において、「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていた」と肯定的に回答する児童の割合を、前年度よりも向上させる。 	B

<p>○令和2年度の児童アンケートにおいて、「授業中、自分で考えて勉強したり、友だちの考えを聞いたりできている」と肯定的に回答する児童の割合を、75%以上にする。</p> <p>○芸術鑑賞会と作品展を年に1回ずつ実施する。</p>	
<p>取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</p> <p>集中力の向上や基礎基本の徹底、徹底反復学習により、一人ひとりの学力を上げる。</p>	B
<p>指標</p> <p>○週4回毎朝の「グッとタイム」や、月1回放課後の「チャレンジタイム」に取り組む。</p> <p>○漢字は前倒し学習し、漢字検定の合格率を53%以上にする。</p> <p>○学力調査等を実施し、一人ひとりの学力を把握して、個に応じた指導を行う。</p>	
<p>取組内容④【施策4 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>子どもたちが楽しく英語を学び、コミュニケーションしようとする力を育む。</p>	B
<p>指標</p> <p>○全学年で週2回15分の英語モジュール学習に取り組む。</p> <p>○令和2年度の児童アンケートにおいて、「英語学習がたのしい」と肯定的に回答する児童の割合を、前年度よりも向上させる。</p>	
<p>取組内容⑤【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>健康や体力に対する意識を向上させ、じょうぶな体を育てる。</p>	B
<p>指標</p> <p>○健康や姿勢について、日常的な指導や学期に1回保健指導を行う。</p> <p>○体育の授業の始めに、全校生が共通して行う準備運動を定め、実施する。</p> <p>○持久力を高める取り組みを、体育の授業及び学校全体として行う。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>○今年度はコロナの影響で実施できないこともあったが、その中で頑張って取り組んだ。</p> <p>○4・5月の学習の遅れを取り戻すため、結果「集中速習」のようになったが、それが良かったのかもしれない。</p> <p>○ぐっとタイムの漢字学習は、自信につながっている。</p> <p>○暗唱テストがあることで目標になり声が出るようになった。</p> <p>○表彰や下学年の頑張りが刺激になる。</p> <p>○「チャレンジタイム」はしなかったが、必要に応じて徹底反復させている。</p> <p>○持久力を高める取り組みとして「なわとピンゴ」に取り組んだ。学校全体として取り組むと効果が大きい。</p> <p>○全学年、算数の単元テスト結果を分析し、一人ひとりの学力を把握しながら、個に応じた指導を工夫することができた。</p>	
改善点	
<p>○あきらめる子への意欲の持たせ方が大きな課題であった。来年度は、個々の結果をグラフにするなど、伸びを可視化する。</p>	

- ぐっとタイムの音読の意義が、子どもに伝わりにくい。
- ICT 支援員に支援・研修していただきながら、1人1台パソコンを生かした教育やプログラミング教育に取り組んでいく（例えば「タブレットタイムなど」）。
- 話し合い活動も意識した授業づくりを行っていく。
- 来年度は、一斉の「チャレンジタイム」や共通の準備運動はやめ、各学年で工夫しながら取り組んでいく。
- 英語学習について、マンネリ化や低学年は ALT との交流がないなどの課題も見られるので、楽しい活動を取り入れていく（例えば英語集会など）。